

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第5号(9月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

病虫害発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病虫害のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病虫害について主に記載しています。

《特に発生に注意》

【バラ科果樹】 **クビアカツヤカミキリ**

【なす】 **うどんこ病**

【きゅうり】 **コナジラミ類(退緑黄化病)**

【かんしょ(さつまいも)】 **基腐病**

【きく】 **黒斑病・褐斑病**

【野菜類・花き類】 **シロイチモジヨトウ、コナジラミ類**

《9月の予報概要》

A 水稲

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲					紋枯病	
				斑点米 カメムシ類		
				トビイロウンカ		
	発生に注意:ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)					

B 果樹類

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			べと病			
				褐斑病		
					晩腐病	
				黒とう病		
				チャノキイロア ザミウマ		
				フタテンヒメヨ コバイ		
					ハダニ類	

バラ科果樹	発生に注意： <u>クビアカツヤカミキリ</u>			
みかん			黒点病	
		ミカンハダニ		
		ミカンサビダニ		
果樹類全般		果樹 カメムシ類		

C 野菜類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす				<u>うどんこ病</u>	
			アザミウマ類		
きゅうり			べと病		
			うどんこ病		
			褐斑病		
			ウリノメイガ		
			ミナミキイロアザミ ウマ(黄化えそ病)		
				<u>コナジラミ類</u> (<u>退緑黄化病</u>)	
ねぎ	発生に注意：葉枯病、ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ(えそ条斑病)				
かんしょ (さつまいも)	発生に注意： <u>基腐病</u>				

※ねぎは令和5年度より巡回調査を開始したため、平年値がありません。

D 花き

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく				<u>黒斑病・褐斑病</u>	
			アザミウマ類		

E 野菜類・花き類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類				<u>シロイチモジヨトウ</u>	
			ハスモンヨトウ		
			コナガ		
			オオタバコガ		
			アブラムシ類		
				<u>コナジラミ類</u>	

《(参考)9月の気象予報》 (大阪管区气象台 8月24日(木)発表)

気温	低い(10%)	平年並(20%)	高い(70%)
降水量	少ない(20%)	平年並(40%)	多い(40%)
日照時間	少ない(40%)	平年並(40%)	多い(20%)

A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
紋枯病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・9月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原菌は糸状菌の一種で高温(28~32℃)、多湿時に多発する。 ・チッソ過多、密植、分げつ過多で発病が助長される。 ・品種としては、キヌヒカリは本病にやや弱いので注意。
斑点米カメムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の予察灯による誘殺虫数は平年並であったが、地域によって差があった。 ・8月のほ場畦畔すくい取り調査では、泉州の一部地域でクモヘリカメムシの割合が多かった。 ・9月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、本府ではアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ(別名イネホソミドリカスミカメ)、ホソハリカメムシなどの発生が多い。 ・出穂前後の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、なるべく実施しない。 ・穂揃期(出穂後2~3日頃)に薬剤散布を行う。発生が多い場合は、乳熟初期(出穂後10日頃)にも散布する。
トビイロウンカ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・8月の予察灯への誘殺虫数は平年並でほとんど見られなかった。 ・9月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲の株元(水際)に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認する。 ・多発が見込まれるときは9月上旬~中旬に1~2回本田防除を行う。
ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、一部地域を除き、ほぼ全域で発生が見られた。 ・植物防疫協力員から複数の地域で平年より発生が多いとの報告があった。

ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	[注意すべき事項] ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 白っぽくなった卵塊は水中に落とすと逆に孵化するので地上で処分する。 ・用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網(網目 5mm 以下)を設置する。
-----------------------	-------	--

B 果樹類

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・9月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・発生を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 ・気温 20～22℃位のやや低温で雨が多いと発生しやすい。
褐斑病	並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・枯枝や落葉、被害葉は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
晩腐病	やや多い	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・被害果房は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。 ・施設内への雨滴の侵入を防ぐ。
黒とう病	並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・伝染源となる発病枝や発病葉を除去し、適切に処分する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
チャノキイロアザ ミウマ	並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・8月の黄色粘着トラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
フタテンヒメヨコ バイ	並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・発生に注意し、被害の初期に防除する。

ハダニ類	やや多い	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生が平年より多かった。 ・9月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・乾燥を好み、ハウス栽培でしばしば多発する。

2 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミ キリ	発生に注意	[注意すべき事項] ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス(幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる)を排出する。 ・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・伝染源となる枯枝は除去し、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。
ミカンハダニ	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・9月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ミカンサビダニ	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年より少ない)。 ・9月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

4 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや少ない	[予報の根拠] ・8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年より少なかった。 ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り

果樹カメムシ類	やや少ない	発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。
---------	-------	--

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや多い	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・9月の降水量は多く、日照時間は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80% で日照不足が続くと発生する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤（ストロビー、シグナムなど）、SDHI 剤（アフェット、シグナムなど）等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並～ やや多い	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難なため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・施設栽培では、開口部に 0.8mm 以下目合いの防虫ネットを張り、成虫の侵入を防止する。

2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった（平年並）。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・気温 20～24℃ で発生が多い。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤（アミスター、ストロビーなど）等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった（平年並）。 ・9月の降水量は多い、日照時間は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。 ・昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤（アミスター、ストロビーなど）、SDHI 剤（アフェットなど）等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・9月の降水量は多く、気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温、多湿のハウス栽培で発生が多い。 ・初期防除が重要である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビー、シグナムなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
ウリノメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
ミナミキイロアザミウマ (黄化えそ病)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生は見られなかった(平年並)。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミナミキイロアザミウマは、発生初期に、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。 ・ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病等のウイルスを媒介するので防除を徹底する。 ・きゅうり黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか、しろうり、にがうり等に感染する。 ・MYSV に感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。 ・生育初期の感染による被害が大きい。 ・ハウスの開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。
コナジラミ類 (退緑黄化病)	<u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、コナジラミの発生が平年よりやや多かった。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にタバココナジラミによって、退緑黄化病が媒介される。 ・退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか等に感染する。 ・CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。 ・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。

3 **ねぎ** ※ねぎは令和5年度より巡回調査を開始したため、平年値がありません。

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉枯病	発生に注意	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査で一部地域で多発していた(被害株率約25%)。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・黒斑病と症状が似ている。 ・病原菌は糸状菌の一種。 ・やや低温(15~20℃)と適度な降雨により発生が助長される。 ・被害葉は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
ネギハモグリバエ	発生に注意	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では被害株率が約1%であった。 ・9月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・近年、従来の系統とは食害方法が異なる新系統の発生が確認されている。一葉に複数頭の幼虫が内部に潜り込んで集中的に葉肉を食害し、葉が白化したようになる。 ・発生を認めたら、系統にかかわらず、「ハモグリバエ類」「ネギハモグリバエ」に適用のある薬剤を散布し、発生初期の防除を徹底する。
ネギアザミウマ (えそ条斑病)	発生に注意	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査ではネギアザミウマの寄生株率が約18%であり、えそ条斑病の被害株率が約2%であった。 ・9月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ネギアザミウマはえそ条斑病の病原ウイルスであるアイリスイエロースポットウイルス(IYSV)を媒介する。 ・被害株は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。

4 **かんしょ(さつまいも)**

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
基腐病	発生に注意	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査で、一部地域で発生が見られた。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・畑の排水を確保するなどして、畑に水がたまらないようにする。 ・早期発見に努める。発生株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分し、その後薬剤散布する。

D 花き(きく)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・ 褐斑病	<u>やや多い</u>	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、発生は平年より多かった。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・降雨の多い場合に発生が多いので、発生前から薬剤の予防散布を行う。 ・被害葉は早めに取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。 ・QoI剤は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並～ <u>やや多い</u>	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、寄生虫数は平年並であったが、被害葉率が平年よりやや多かった。 ・9月の気温は高く、降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・品種により被害の現れ方に差がある。 ・施設栽培では、開口部を 0.4mm 目合いの防虫ネット(赤色ネットは 0.8mm も可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場内部、周辺の除草に努める。 ・ビニールなどのマルチングにより、土中で蛹化するのを防ぐ。 ・きくの残さは放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。 ・殺虫効果が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

E 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	<u>やや多い</u>	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年より多かった。 ・8月の巡回調査では、露地ねぎで発生が見られた。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	並～ <u>やや多い</u>	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かった。 ・8月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・9月の気温は高いと予想されている。

ハスモンヨトウ	並～ <u>やや多い</u>	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、一部地域で平年よりやや多かった。 ・8月の予察灯への誘殺虫数は、平年より少なかった。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
オオタバコガ	並～ <u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年より多かった。 ・8月のなす(露地栽培)での巡回調査では、幼虫の発生は平年より少なかったが、卵は確認された。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。 ・摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。
アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・8月の黄色水盤調査における発生は平年並であった。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナジラミ類	<u>やや多い</u>	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の巡回調査では、なす、きゅうりで発生は平年より多かった。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なすやきゅうり等施設栽培では、開口部に 0.4mm 目合いのネットを張り、成虫の侵入を防止する。 ・葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。 ・ほ場内や周辺部の除草を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

- 大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・ホームページ
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>
- 病虫害発生情報メールサービス
申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・メールサービス担当
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailsservice.html>
- おおさかアグリメール
申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所企画部企画グループおおさかアグリメール受付担当
<https://www.knsk-osaka.jp/nourin/agrimail/>

※情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です。